



【オリエンテーションと干潟調査】

令和3年5月1日(土) 9:00-13:00

場所：南三陸町自然環境活用センター

スタッフ：南三陸ネイチャーセンター友の会
南三陸町自然環境活用センター
アミタ株式会社

※今回は、志津川高校自然科学部の部員も参加してくれました。



「今年みんなの目標は!？」

・今年も調査隊の活動がいよいよ始まりました。今年度の新メンバーは13名です。1回目の活動は13名の全隊員が参加し、オリエンテーションと干潟調査を行いました。オリエンテーションでは、自己紹介の後に今年の目標を発表し、スノーケリング・釣りをやってみたいや、顕微鏡でプランクトンを見てみたい、魚の解剖を試してみたいなど隊員みんながそれぞれの目標をかかげました。

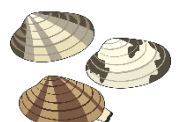
「調査の前のレクチャータイム」

・干潟調査を行う前に、タクゾー博士から去年の活動について報告がありました。内容は、調査隊が結成されてから壁新聞が環境大臣賞をとるまでの活動を、わかりやすくまとめたものでした。次に、干潟に生息する生きものとその役割についての説明があり、いよいよ野外調査の始まりという時に震度5強の地震が起きてしまいました。少しの間、詳しい情報が出るまで待機していましたが津波の心配はないということでみんなで調査に向かいました。



「折立海岸はどんな場所??」

・折立海岸は、ネイチャーセンターの目前に広がる海岸で、折立川の河口付近に位置しています。2015年の復旧工事で今の状態の人工干潟になって以降、約30種の生きものが毎年見つかっています。



「どんな調査をしたの？」

・干潟で生きものを見つける「3つのワザ」：①しゃがんで目線を近づける ②石の下や隙間をのぞく ③スコップを使って砂の中の生きものを掘り返す を使って折立海岸の生きものをできるだけ多く見つける調査を行いました。今回の調査では、お天気も良かったせいか、いろいろな生きものが見つかりました。



「どんな生きものがいたの？」

・今回見つかった種類は、ヒメケハダヒザラガイ、クモリアオガイ、イシダタミ、タマキビ、アオモリムシロ、ヒメイガイ、マガキ、アサリ、スナイソゴカイ、ヒャクメニッポンフサゴカイ、シロスジフジツボ、ユビナガホンヤドカリ、イソガニ、ケフサイソガニ、タカノケフサイソガニなど、合計で44種でした！

・このうち、クモリアオガイ、イシダタミ、アサリは、13人中10人以上が見つけた『優占種（ゆうせんしゅ）～折立海岸に多く住んでいる種～』になります（発見率が70%以上の種）。
・他には、チビイトマキヒトデ、ニオガイ、ツブカワザンショウも見つかりました。これらは、絶滅のおそれがある生きもの（レッドリスト）にのっている種です。



【今後の予定】

・6月5・6日（土・日）：青森県むつ市 イルカ調査
青森県むつ市へ1泊2日でのイルカ調査の活動予定となっています。むつ市へ行ってむつ子どもたちと一緒にイルカを見ませんか？是非、ご参加ください。

・6月26日（土）：亶理町鳥の海 干潟観察
志津川高校自然科学部の部員のみなさんと宮城県で最大の干潟である「鳥の海」で干潟の生きもの観察をします。是非、ご参加ください。

